

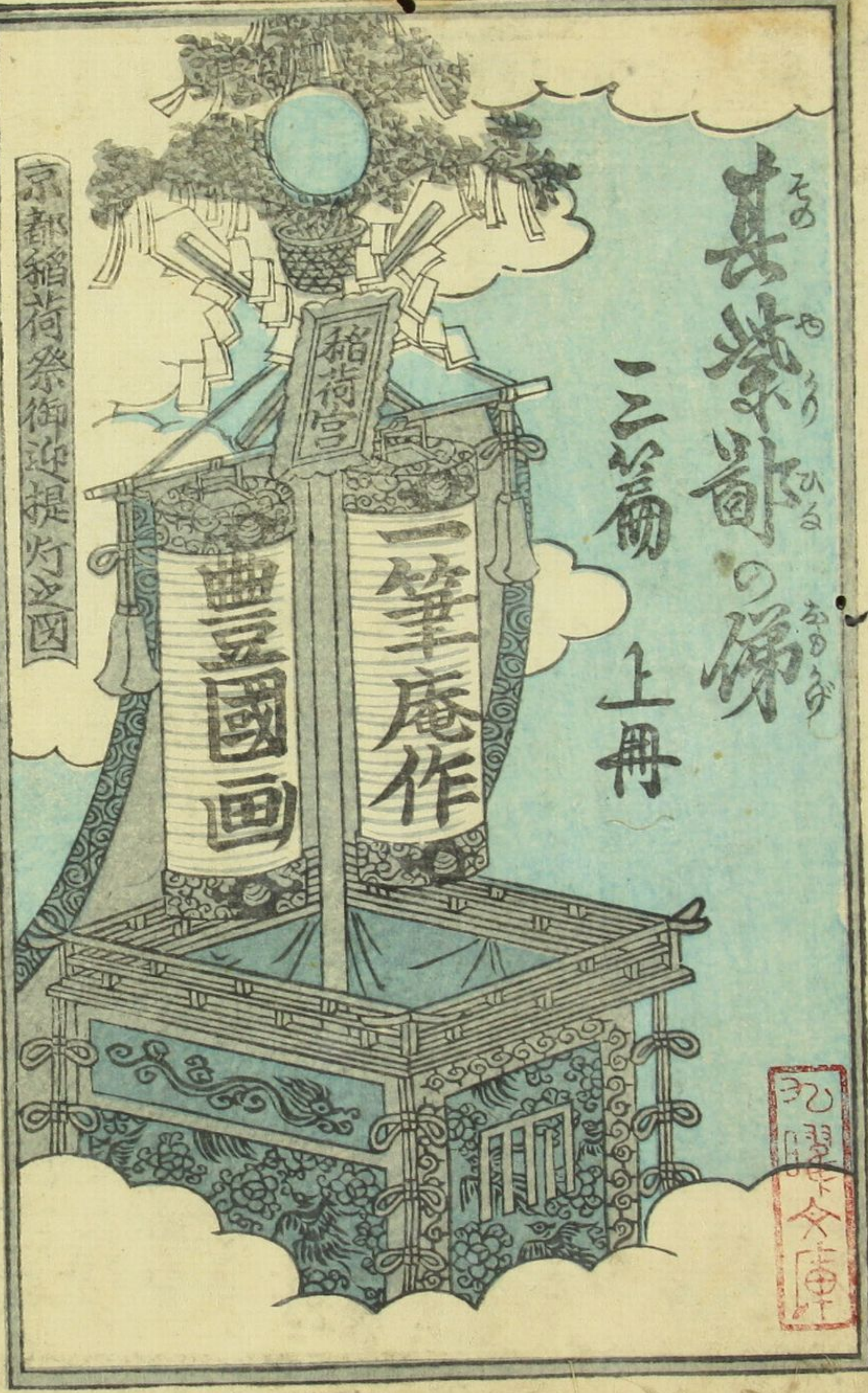


7 8 9 60 1 2 3 4 5 6 7 8 9 70 1 2 3 4 5 6 7 8



其茶節の傍

二篇 上冊



弘化申歳

此序を書くとまゝ特一個の客あり去年賣出廿一初編三編を
 真木柱の巻とてしり性程と如何あるれどと回れ己ぬる初編を
 巻生る末より小假名あり柱の更ハ暫をき悉賤小老筆時繪あり
 武器小腰巻着素小花為物年越小豆蔀あり農夫乃耕作子
 種前何もは田舎の種瓜蔀あり然るハ實生を裁倍せんかか
 ちいさくは魚性た接穂中やういふはとも夫と知巨接が枝を源を流
 ぶ源印の後とも皆人毎ふ言言僅時好小稱迎打を及ぶるといふあり
 何れ縁ど藝會ふ出此好ぐふわんの南窓此の邊りもあつても
 ちいさく断るも先此方々切場介て初秋迄頼隨傳ふ筆を接
 初とて發客系一と言やうまゝ二篇を稿を後世に物草毎ハ早
 書書小作者が叱られて然るハとて居るとなまゝ私私向ひる
 を何れハ巻柱の語釈の酒小碎す如く過樓何れも接授小客も笑て
 果々帰りの也序文の更ハとてふあるは一其長傳の事誌て

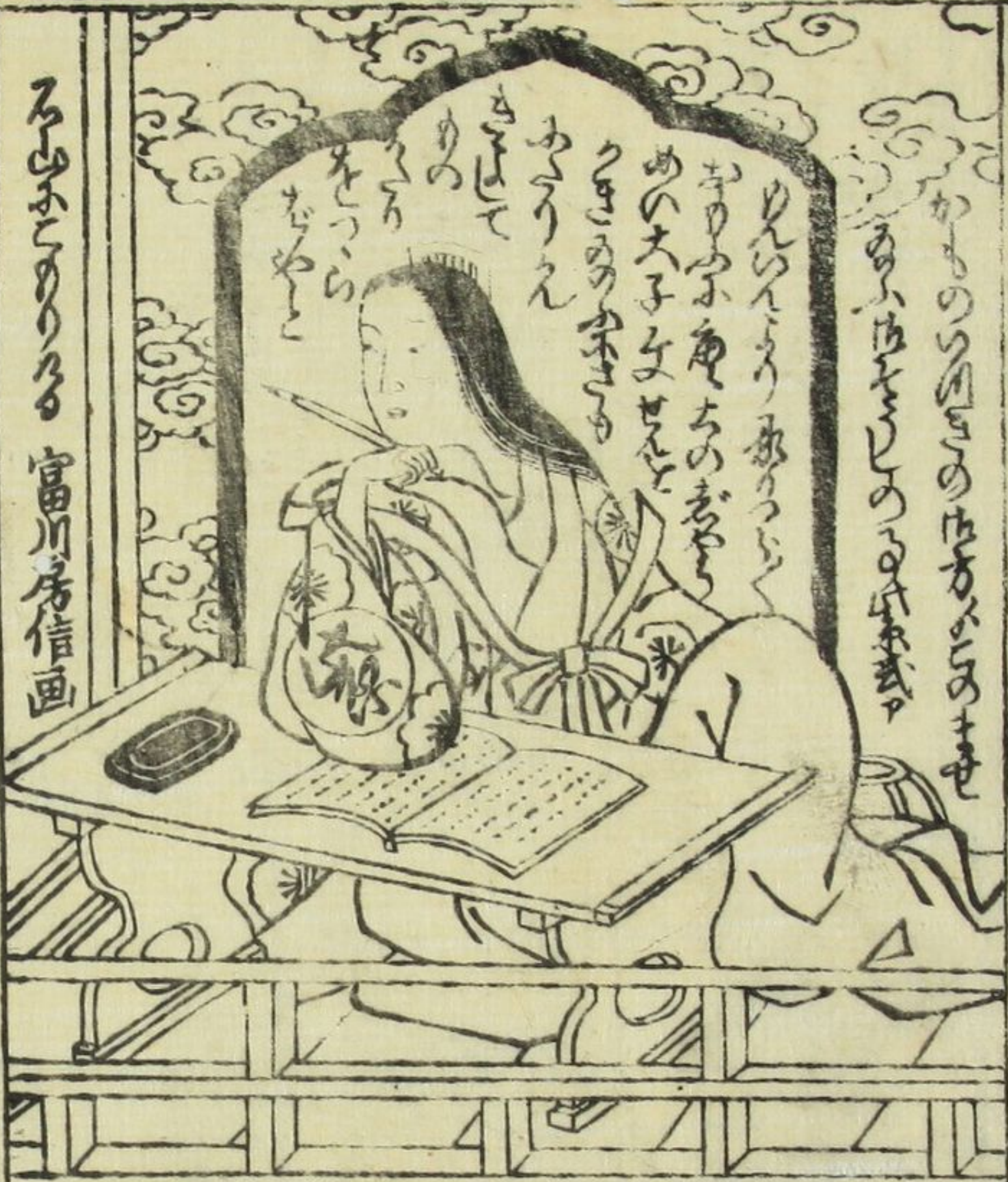
下

貞享 年開 印本 今様 物語 又出 手撰

画の値

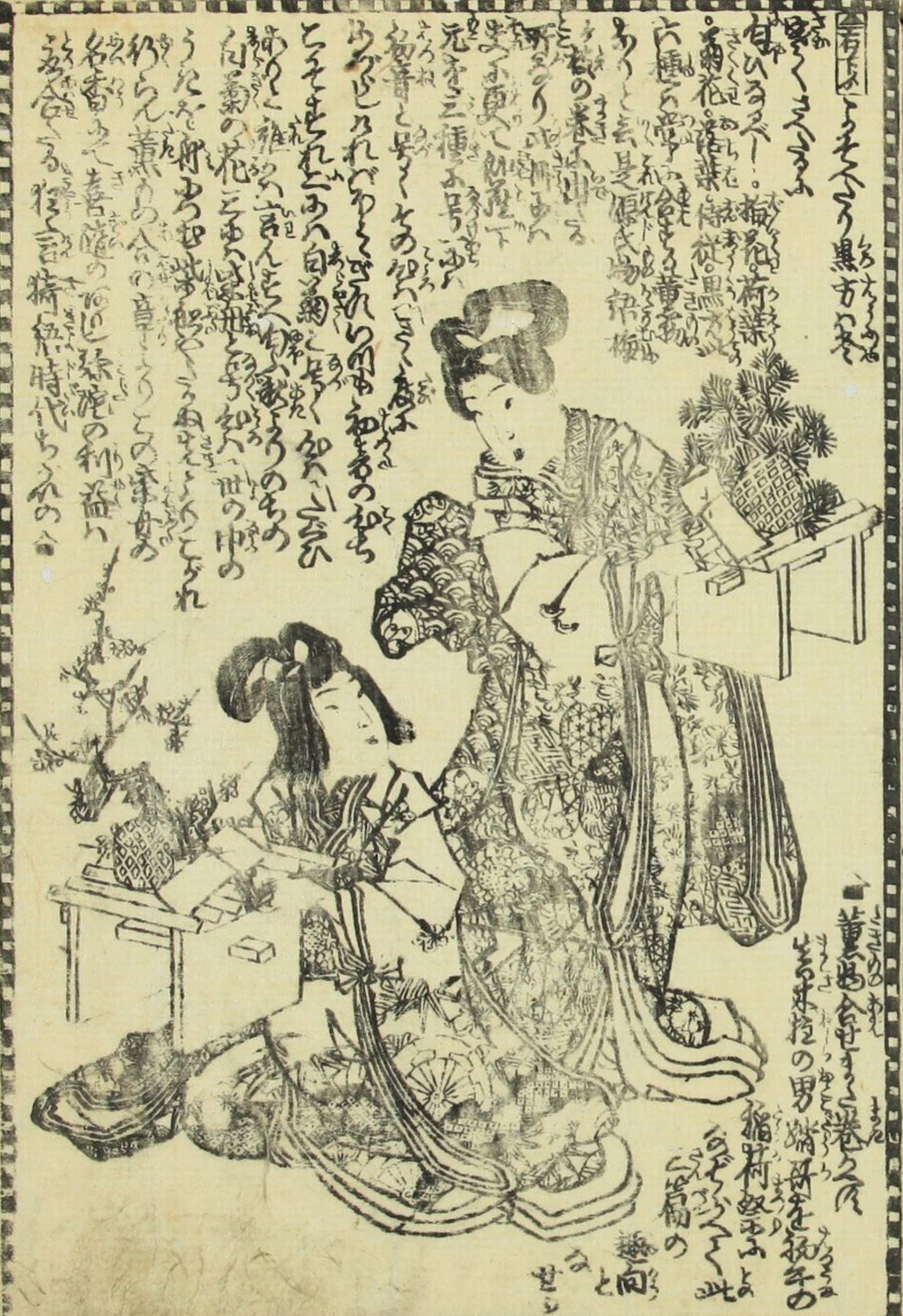
おんていし余命を塞ぐおまぬ
 維時弘化丁未歳初秋搗脱
 同戊申年新春發兌

一筆茶弁主人識



富川房信画

此巻の薫り香は芳なり
 花鳥餘情を薫物を理の源を
 尋ねば梅花の心は秋の香の
 元ふ理と澄懐録の香譜も載唐
 中梅花の薫物の香を製する
 者諸香を公氣味梅花の如く
 一は是を辨く返魂梅と云見え
 一は後柏葉の柏玉集の蓮と梅
 一水迎くつゆめまらるるの香
 ひもこれ池の才と我薫集類
 抄ふ所の香も擬して夏月外ふ
 芳を施すも梅花の花をいふ
 云てたも香ふるを侍後
 と云い秋風涼くさくさ長月



香よふとそふり黒方な
 白ひるる。梅の花
 六種の花をいふ
 ありと云是は梅の花
 元香三種の香
 白菊の花と云は梅の花
 うたを折ちおまぬ
 仍らん薫りの香の
 名香して喜遊の
 致合する後言持無時

薫り香の香ふるを侍後
 と云い秋風涼くさくさ長月
 此巻の薫り香は芳なり
 花鳥餘情を薫物を理の源を
 尋ねば梅花の心は秋の香の
 元ふ理と澄懐録の香譜も載唐
 中梅花の薫物の香を製する
 者諸香を公氣味梅花の如く
 一は是を辨く返魂梅と云見え
 一は後柏葉の柏玉集の蓮と梅
 一水迎くつゆめまらるるの香
 ひもこれ池の才と我薫集類
 抄ふ所の香も擬して夏月外ふ
 芳を施すも梅花の花をいふ
 云てたも香ふるを侍後
 と云い秋風涼くさくさ長月

卷の名
耀元琵琶を弾して催馬楽の
梅ヶ枝を唱はす



むめろんふふふふふ
やまやまうけし
二段
三段
あつ
あつ

薰物合の後
足利の室の上
此糸の上



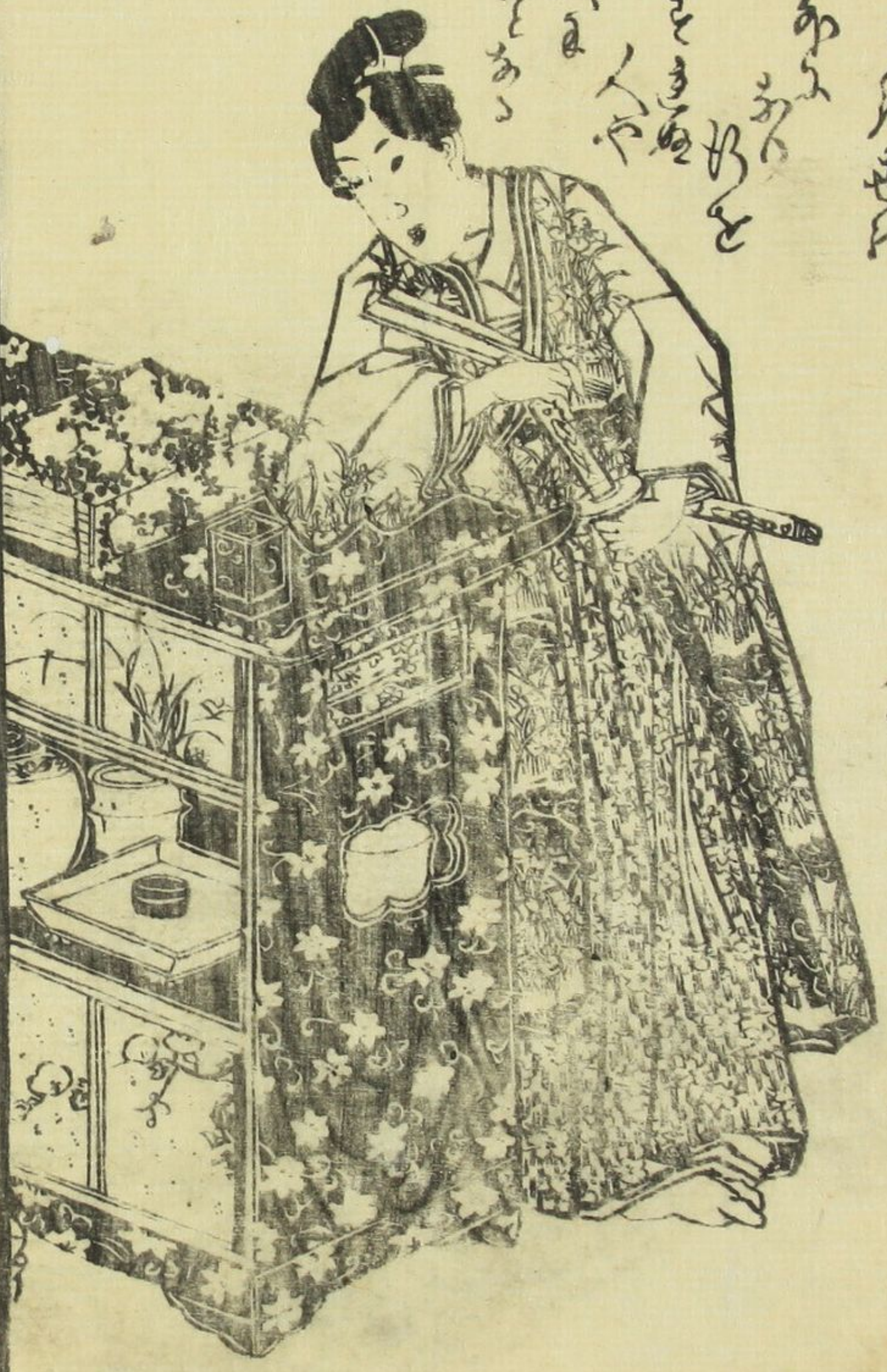
此糸君ハ筆琴を
千鳥の曲を奏する
むめろんふふふふふ
やまやまうけし
二段
三段
あつ
あつ

足利
耀元卿

泣れあはれ
うたせむ

あはれ

あはれ
あはれ
あはれ
あはれ



夕霧の宰相の比まゝ
足利雲井之丞氏仲

限りなき

うたせむ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

あはれ

くろくろひ
雲井の厂小比まゝ
赤松高直の
息女
雁音



Handwritten text in vertical columns, likely a commentary or a list of items, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style.



Handwritten text in vertical columns, surrounding the illustration. The text is written in a cursive style.



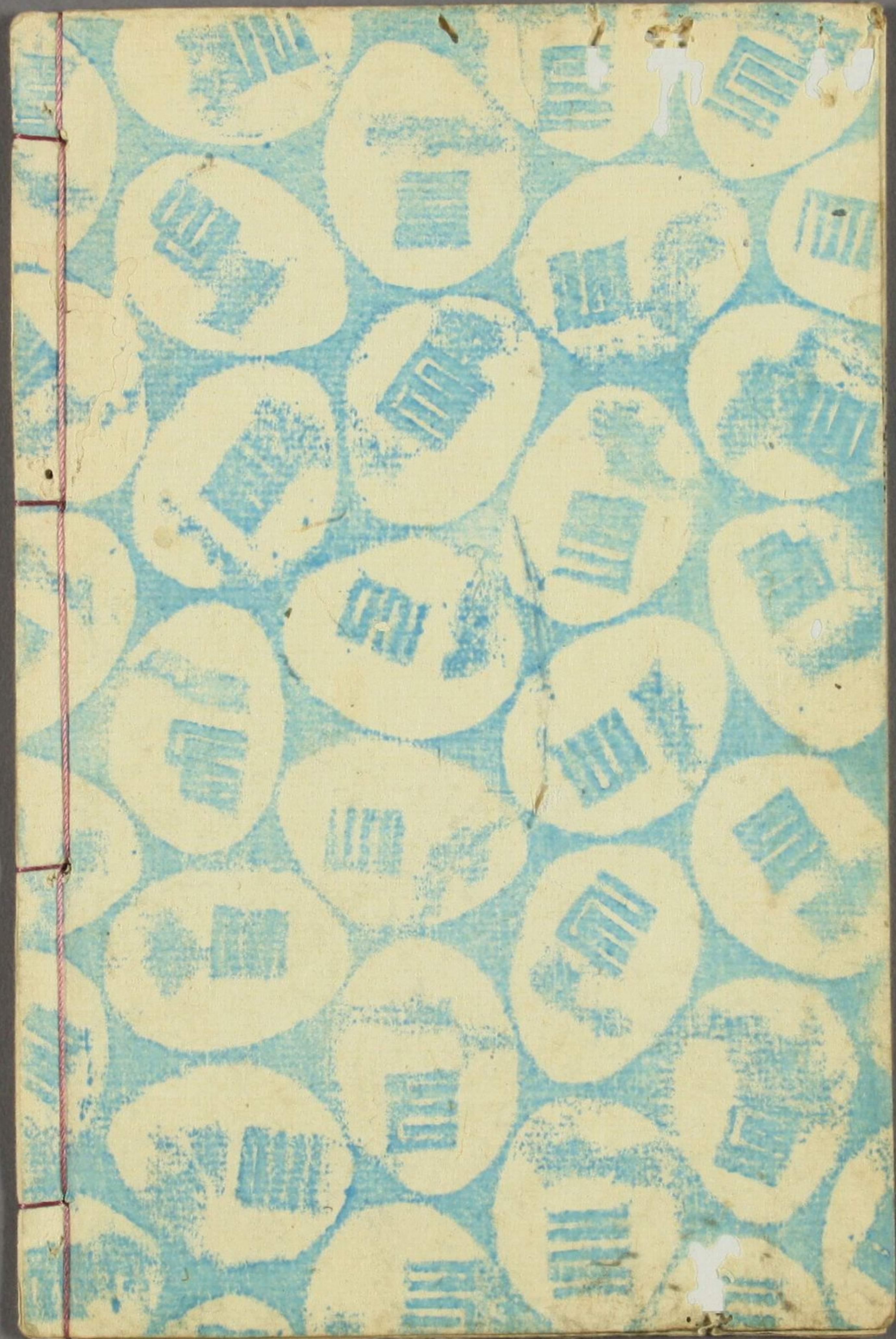
一陽齋豐國畫一筆芥主人戲作



一盃齋芳虎畫

地本繪草數問屋 照降町 笑壽屋庄七様

此は... (vertical text describing the scene or the artist's work)





女子入道





おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...



おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...

おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...



おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...
おはせのうらやまの香...

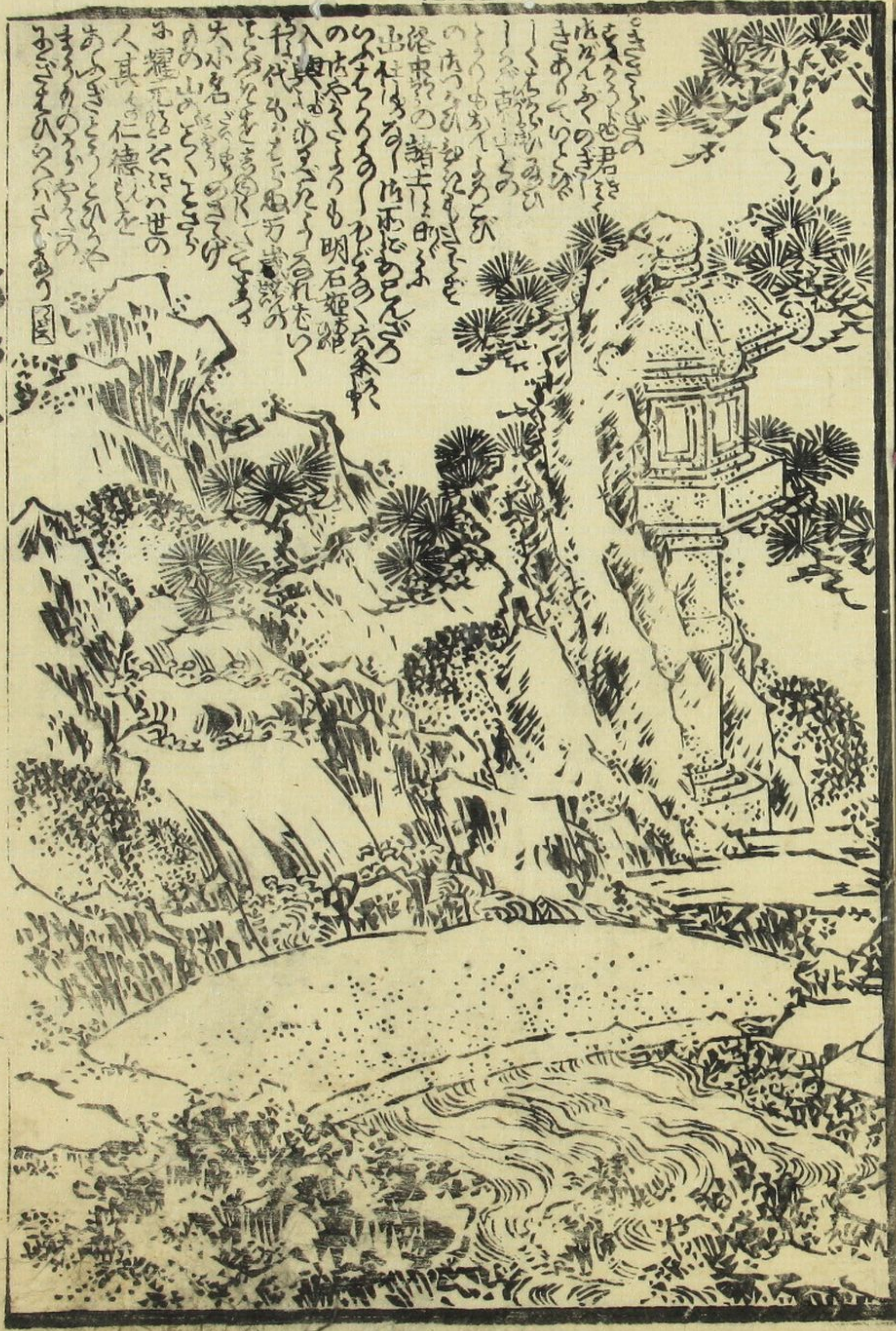
〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき



〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき



〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 〇この世は人の世のまはる内裏はあやうき
 世にまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 そのまはるはあやうき世にまはるはあやうき
 昔のまはるはあやうき世にまはるはあやうき



此の山は...
 仁徳...
 明石...
 行代...

第...
 四...



相...
 堀...

此の...
 相...
 堀...

首...



此の袋は
 名物の
 袋に
 入る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也
 又
 此
 の
 袋
 は
 名
 物
 の
 袋
 に
 入
 る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也

此の袋は
 名物の
 袋に
 入る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也

此の袋は
 名物の
 袋に
 入る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也



此の袋は
 名物の
 袋に
 入る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也

此の袋は
 名物の
 袋に
 入る
 物
 多
 敷
 故
 此
 の
 袋
 を
 用
 意
 せ
 る
 事
 宜
 敷
 也

豊國画一筆茶弁主人作



稽妻形

怪鼠標

子七編

樂平西馬稿

魯文作

國明画

其由縁鄙傳

二十編 種彦画
二十一編 國貞画
二十二編 國貞画

十勇士尼子の礎

五編 魯文作
六編 芳虎画

兩夜鐘四谷雜談

九編 魯文作
十編 芳虎画

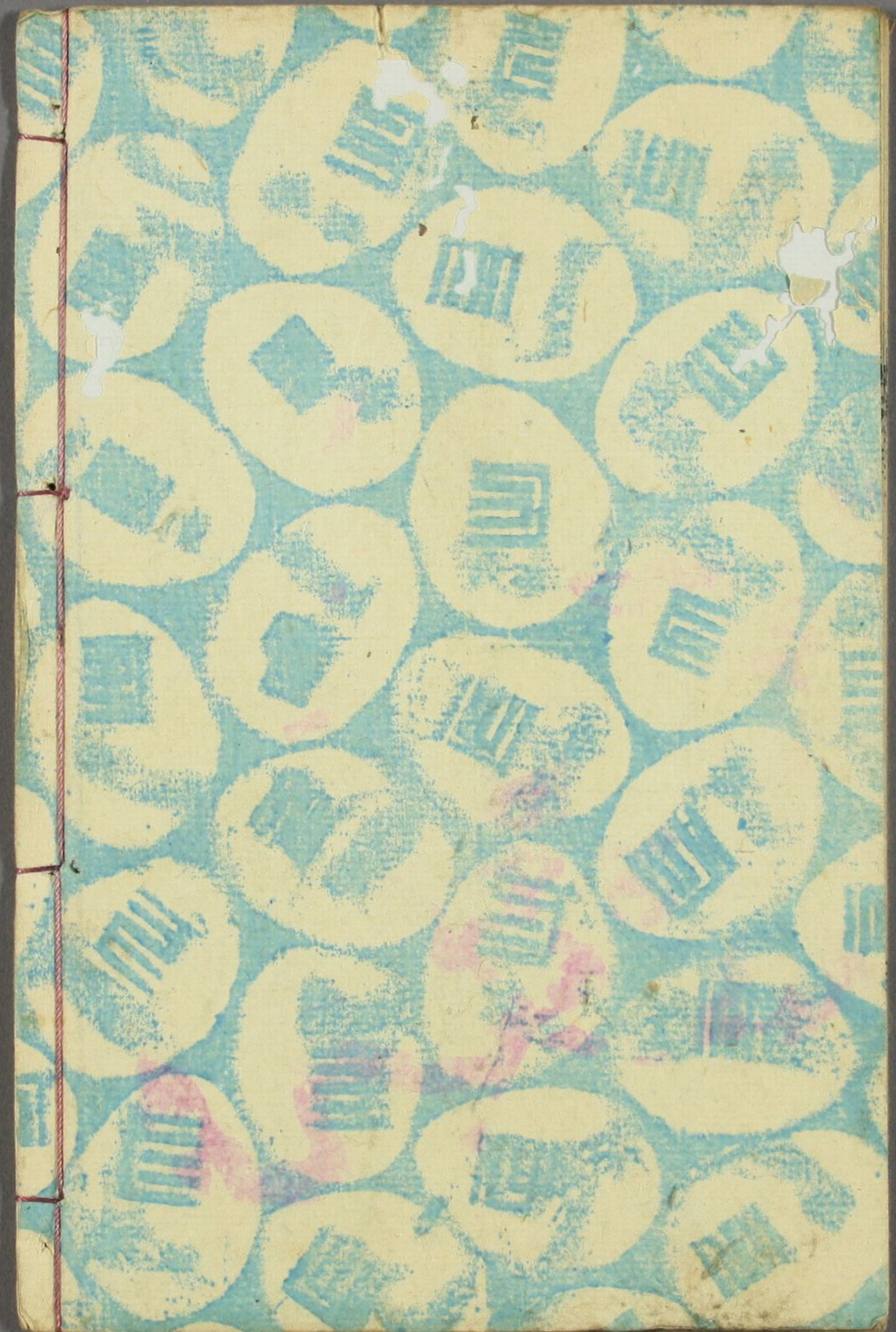
比奈乃都大内譚

三編 種彦作
四編 芳虎画

地

江戸よりあつたあひすや

庄七





英泉画

梅うえの巻

其紫部通

傳巳毒

合二

新板
一筆斎作
曲豊回画

錦界堂板

